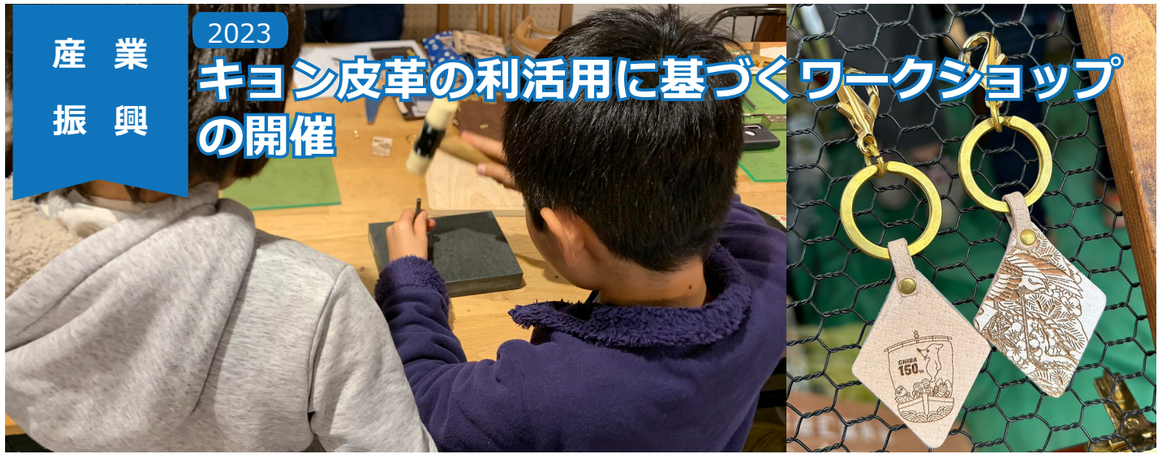
産業振興

2023

# キョン皮革の利活用に基づくワークショップの開催



**実施者**

≪教　員≫　千葉大学　特任専門員 / 地域コーディネーター 阿部 厚司

≪学　生≫　千葉大学 工学部 総合工学科デザインコース デザイン文化計画研究室　4 年 細谷 風太

≪協働パートナー≫

【企業等】伝右衛門製革，館山ジビエプロジェクト，ヤマナハウス，株式会社 JTB 千葉支店

【個　人】館山ジビエプロジェクト　サブリーダー 合同会社 DIEM 代表社員　大阪谷 未久

## 1. 背景・目的

近年，日本全体で野生鳥獣による獣害が多発している．とりわけ千葉県では特定外来生物のキョンの生息数が急増し問題視されている。キョンは元々中国南部や台湾に自然分布する生物であるが，1980 年代に千葉県勝浦市にあった私立観光施設から逃げ出し，千葉県内にて野生化してしまったといわれている。房総半島が年間を通じて温暖な気候でありキョンにとっての餌となる植物も多いため，南房総地域はキョンにとって恰好の生息環境といえる。そのため繁殖力の強いキョンは年々個体数が増加してゆき，2023 年には県内に7万頭生息しているとの報道もあった。

キョンは千葉県内で様々な方法で捕獲されているが，捕獲されたキョンの皮はあまり有効活用されていない現状がある。実はキョンの革は手触りが良く，セーム革の中では最高級品といわれている。また，吸水・吸塵性も持つ魅力的な革素材である。そこでキョンなどの有害鳥獣の残さの有効活用に着目し，キョン革を含めたジビエレザーの魅力を通じて，多くの人に獣害について知ってもらうことができると考えた。

そこで，キョンや獣害について多くの人に知ってもらえるような機会としてワークショップのデザイン・開催を行った。キョン革はなめしのコストが高く，キョン革製の製品はその分価格も高い。また，その供給源も捕獲によるものしかないこともあり，キョン革そのものやその魅力が広まる機会が少ない。そこで，ワークショップは多くの人の目につき安価にキョンの革に触れる機会となりうると考えた。また，害獣の皮革の再利用というサーキュラーエコノミーの活動のモデルとなり，このような地域資源の利活用の活動が推進されると考えた。

本活動は南房総市の山名エリアにて二拠点生活をしながらヤマナハウスなどの活動にて獣害問題解決への取組を行っている「伝右衛門製革所」の支援を仰ぎながら実施したものである。

## 2. 実施内容

**（1）実施日**

北条海岸ビーチマーケット (6/4)・SDGs ライフスタイル展 (8/5.6)・革榮感謝祭 (10/29)・北条海岸ビーチマーケット (11/12)・「atelier lab. DIEM」オープンワークショップ (1/20) 千葉県誕生 150 周年記念　千葉の魅力発見ツアー (2/12)

**（2）活動内容**

1）ワークショップ運営補助

北条海岸ビーチマーケット (6/4)・SDGs ライフスタイル展 (8/5.6)・革榮感謝祭 (10/29) にて，「伝右衛門製革所」が開催していたワークショップの運営の補助を行った。この時はワークショップの参加者にアンケートをとり市場調査を行い，補助を通じてワークショップの開催について学ぶ機会となった。また，現地の参加者とお話をすることで，様々な考えを聞くことができる貴重な体験となった。

2) ワークショップデザイン

「万祝キーホルダー作り」というワークショップ体験をデザインした。万祝とは房総半島発祥の漁師の祝い着で，その模様には当時の人々の海に対する自然観が表されている。その万祝の柄が模されたキョン革とイノシシ革でできたキーホルダーを参加者に作ってもらう体験をデザインした。私の所属している千葉大学デザイン文化計画研究室では，これまでの南房総地域での活動にて万祝の型紙をデジタルデータ化し様々な活動で活用されており，今回の活動でもそのデジタルデータを活用した。( 2024年1月に開催された 南房総市のはたちを祝う会の記念品として成人の方々に万祝クリアファイルが贈呈された。) 万祝を用いることで製品に地域性を持たせることができ，また獣害から人と自然の関係性の再考してもらうきっかけとして良いモチーフになったと考える。また，キョン革や万祝について参加者に知ってもらえるように様々なボードを作成した。

3) 北条海岸ビーチマーケット・「atelier lab. DIEM」オープンワークショップ

実際にデザインしたワークショップを北条海岸ビーチマーケット (11/12) に初めて開催した。当日は 10 名程度の参加者にワークショップを楽しんでもらった。参加者のアンケートでは「動物の革の有効活用などについて考えるいい機会となった」「土地の歴史にも触れられ，害獣とされるキョンがこんなにも良い製品になるとは驚いた」というような意見を頂いた。2024 年 1 月にも館山市の複合型施設「YANE TATEYAMA」内の「atelier lab. DIEM」にて，工房オープンを記念した atelier lab. DIEM オープンワークショップを開催した。この時は 40 名ほどの参加者があり，より多くの方にワークショップに参加していただくことができた。子供も連れの方が多く，「子供にとっての学びの機会として良いものだった」との感想をいただくことができた。また，「革作り体験が面白かった」という意見も多く，革製品作り自体がワークショップの魅力の一つであることを再認識した。

4) 千葉県誕生 150 周年記念　千葉の魅力発見ツアー

株式会社 JTB 千葉支店主催の千葉県誕生 150 周年の企画「B.B.BASE で行く！早春の南房総！特別な 1 日」にて南房総地域を巡るコースの途中で「万祝柄ジビエレザーキーホルダー作り」が体験プログラムとして行われ計 3 6名の参加者に体験いただいた。東京や千葉の都市部周辺などからの参加者が多く，短い時間ながらもスムーズなワークショップ体験をしてもらうことができ，地域外の方々にジビエレザーを房総半島の魅力の一つとして伝えることができた。

1　ワークショップ運営補助の様子

2～4　実際のワークショップの様子

5　千葉の魅力発見ツアーの様子

**域学協働の工夫！**

**★キョン革製品の新たな展開として万祝という地域性のあるモチーフを用いたことで，「チバレザー」としてキョン革をアピールできた。**

**★キョン革を用いた新たな方法のワークショップを提供することができた。**

## 3. 成果と課題

北条海岸ビーチマーケットと「atelier lab.　DIEM」で開催したオープンワークショップでは，多くの周辺住民の方々に参加してもらい，キョン革や万祝といった文化的な地域資源の再認識を促すことができ，改めて獣害について考えてもらう機会になった。また，「千葉県誕生 150 周年記念 千葉の魅力発見ツアー」では東京などの遠方からの方々に多く参加していただくことができ，房総地域の魅力としてキョン革を伝えることができた。また都市部の人々とはあまり関わりのない獣害問題についても触れてもらえる機会となり，里山地域の問題について興味を持ってもらえる機会となった。このようにしてジビエレザー製品の価値を高めることで，地域全体で駆除に取り組む姿勢を促すことができ，結果的に獣害問題の解決につながるという側面もあると考えられる。

今後，より詳しく獣害や里山の問題について説明できるような媒体があれば，興味を持った人にその理解度を深めてもらうことができると考える。

## 4. 今後の展開

今後は万祝キーホルダーのデザインを増やしてワークショップの自由度を高めることが課題だと考える。制作作業がより没入できるものであると，学んだことに対する考えを深めることができる。また，先述の通り，興味を持った参加者に対して里山の問題を詳しく説明する媒体が必要となると考える。

＊表彰・マスコミ掲載など

・「NHK　あさイチ ～愛でたい nippon 世界がびっくりメイド・イン・千葉～」放映　2023-10-19

・房日新聞 2024 年 1 月 7 日号 掲載